

ねえ、おつかれ！

ヌルル・シャキリン

みなさん、「おつかれ」という言葉を知っていますよね？私は日本に来る前に、その言葉の意味は学校で勉強しましたが、日本に来てから、大学で友人に会うと、朝でも夕方でも、「お疲れ〜」「お疲れさまです」と言うようになりました。

最初のころは、朝から「お疲れさま」と言われても、まだ何もしてないし、疲れていないので、どう返事をすればいいのかわからなくて、困ったことを覚えています。

「お疲れ」という言葉は「今日はよく頑張ったね。」、とか、「よくできた」という気持ちを含む言葉だと思っていたからです。つまり、相手の苦労をねぎらう意味で用いる言葉ですね。

まさか、「おはようございます」「こんにちは」の代わりとして、挨拶のように使われているとは思いませんでした。しかし、日本に来てから1年経ち、自分もどこでも、誰に対してでも、自然と「お疲れさま」を口にするようになりました。

日本人が使う「お疲れ様」には、2つの意味がありますね。

ひとつは、「やあ！」「元気？」「調子はどう？」というようなカジュアルな「挨拶」です。もう一つは、漢字からも分かるように、相手の苦労をねぎらう意味で、大変な「仕事」をやりきった仲間にかける言葉です。

さて、「お疲れ様」という言葉から、どんな気持ちが相手に伝わるか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

想像してください。試験や仕事が上手くできなくて、がっかりした日はどうでしょう。そんな日に、誰かが自分の悩みを聞いてくれて、最後に「お疲れ」って言ってくれたら、どうですか。嫌な気持ちが軽くなって、少し落ち着きませんか？

こんなふうに、「お疲れ」という言葉にはとても強い力があると思います。

私はマレーシアの出身ですが、このような言葉はマレー語にないというか、^{ちよくやく}直訳して普段使うと、変な感じになってしまいます。挨拶として使うのは、明らかに不自然です。

私は「お疲れ様」という言葉から、日本語の美しさに気付きました。この美しい言葉には「相手を思いやる気持ち」が含まれているからです。

例えば、悩みがある友人や家族をなぐさめるとき、ピッタリの言葉が見つからないことはよくあります。でも、「お疲れ」と言ったら、シンプルな言葉だけど、優しい愛が伝わります。ひと言で言うなら、相手への「思いやり」でしょう。

よく「小さなことが大切」と言われます。人に感謝を言う時は「ありがとう」。自分が間違えて謝る時は「ごめんなさい」。同じように相手を思いやる「お疲れ」も大事な言葉だと思います。

挨拶として普段から使われている「お疲れ様」という言葉は、意味をきちんと把握してみれば、日本文化のなかの非常に素敵な表現でした。私自身もその意味を大切にしながら、「挨拶」でも思いやりを持って使っていきたいと思います。

最後に、みなさま、お疲れ様です！ご清聴ありがとうございました。